

# おごせ 教育 Pick Up



## 越生小学校

本校では地域に学ぶ機会が多くあります。特に3年生では梅園小の児童と合同で梅もぎ体験を行い、交流を深めることができました。今後も地域の学習や校外学習を通して、小小連携や体験的学習を充実させていきます。

## 梅園小学校

梅園小の運動会の大きな特徴は、子どもたちはもちろん、保護者・地域のみなさんによる手作りの運動会ということ です。前日準備に始まり、当日の競技や踊り、後片付けに至るまで、たくさんの方の協力で成り立っています。今年も素晴らしい運動会となりました。



## 越生中学校

6月6日生徒朝会が行われ、各部長から学校総合体育大会等に向けた意気込みが発表されました。その後、生徒会が中心となり、全校でエールを送りました。



### おごせっ子広場

町内の小中学校や町の行事等に参加する子どもたちを写真で紹介するコーナーです。

- 「かしこく」＝学力の定着
- 「わかった」「できた」「楽しい」授業を実践し、学力の定着を図ります。
- 漢検、英検などを実施し自主学習・家庭学習の定着を図ります。
- 暗唱チャレンジによる向学心の育成を図ります。
- 「やさしく」＝豊かな心の育成
- コミュニケーションを通して、豊かな心を育みます。
- 保護者、地域と連携し、様々な体験活動を充実させます。

梅園小学校では、「いつでも元気、本気、根気の梅園小」を合い言葉に、「知」「徳」「体」のバランスのとれた児童の育成を目指しています。子どもたちが安全で安心でき、保護者や地域からさらに信頼される開かれた学校をつくるため、全職員が「以和為貴」（和をもって貴しと為す）の精神で努めていきます。

ズームイン教育242  
いつでも  
元気・本気・根気  
の梅園小

梅園小学校



収穫祭に向けてサツマイモの苗を植えました

- 越生小や越生中との連携に努めます。
- 「たくましく」＝たくましい心と体の育成
- 朝マラソンやチャレンジタイムで体力をつけます。
- 雑巾がけによる体力向上に努めます。
- 何事にも挑戦し、最後までやり抜く態度を育てます。
- 「安全安心な学校」
- いじめ、暴力、不登校、交通事故を「ゼロ」にします。
- 登下校の見守りを実施します。
- 「家庭や地域に開かれた学校」
- 保護者や地域との連携を深めます。
- 学校応援団の活用を図ります。
- これらの取り組みを核とし「凡事徹底」の精神で、学校経営に努めます。

# 越生浪漫

No.102

渋沢平九郎をめぐって  
その1



渋沢平九郎

慶応4年(1868)5月23日午後、飯能で官軍に敗れた一人の若い振武軍兵士が顔振峠から黒山村に下りてきました。敗残兵を掃討中の官軍の斥候隊と遭遇、孤軍奮闘し、二人に傷を負わせましたが、死期と悟り、路傍の巨石に座して自決しました。遺体の首は刎ねられ、越生今市宿(現越生市街地)に晒されました。今市村の島野喜兵衛と黒岩村の横田佐平が不憫に思い、密かに首を法恩寺に埋めたと伝えられています。遺体は黒山の村人たちによって全洞院に



渋沢栄一(国立国会図書館デジタルコレクションより)

埋葬されました。白木位牌には「慶應四年戊辰年五月二十三日/真空大道即了居士位」。「俗名不知江戸之御方而候/於黒山村打死」と記されています。◆やがて、この兵士は振武軍の将、尾高惇忠の弟平九郎であったことがわかりました。渋沢栄一(天保11年(1840)~昭和6(1931))の妻千代は惇忠の妹です。従弟で義弟の平九郎は、渡欧する栄一の相続人(見立養子)に指名され、渋沢姓を名乗っていました◆栄一は、明治と改元された、この年の末に帰国、翌明治2年に新政府に出仕して大蔵省に入省しました。のち、実業界に転身し、産業経済、社会事業、政治、外交、教育文化、あらゆる分野に不朽の業績を遺しました。「日本資本主義の父」と称される、我が国の近代化の立役者です◆平九郎の長兄で、栄一の学



尾高惇忠(塚原夢洲『藍香翁』より)

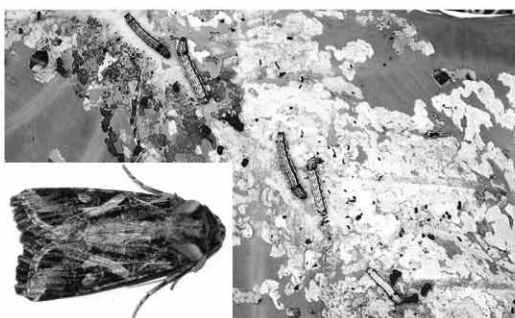
問の師である尾高惇忠は、維新後、富岡製糸場初代場長などの要職を歴任しました。また、栄一の従兄で振武軍総帥の渋沢成一郎は、箱館戦争にも参戦、敗れて入牢しますが、出獄後は経済界で活躍しました◆全68巻の主要部分がデジタル化され、ネット公開が始まった『渋沢栄一伝記資料』の随所に平九郎が登場します。維新の動乱を生き延び、成功を収めた一族のなかで、ひとり悲運に見舞われた平九郎の無念を、終生忘れなかった栄一の思いが伝わります◆今年も「渋沢平九郎自決の地」(越生町指定史跡)では、「自刃岩」傍らの榮莢が、平九郎の血の色を宿すという真っ赤な実を結びました。平九郎百五十回忌に当たり、その最期をめぐる資料や断章を集め、後日のために記録しておきたいと思えます。④

## おごせ 昆虫と自然の館 通信 No.63

近年増加した  
ハスモンヨトウ

「チョウ目ヤガ科」

サトイモ畑では、7月下旬から集団でイモムシが発生し、葉の表皮を残しながら食い荒らされることがあります。やがて、幼虫は分散しながら大型となり、周囲のいろいろな植物を食べます。秋が近づくとダイズやアズキ、ブロッコリー、ナス、トマトなどの野菜、キクやシクラメンの花、冬の施設イチゴでも被害対策が必要ですが◆幼虫の頭に近い部分に2つの黒い斑紋が見つかれば、それはハスモンヨトウです。メス成虫は葉裏に100~300個の卵塊を産卵し、若齢幼虫は集団で生活をします。この集団がクモなどの天敵に襲われると集団が崩れ、小さな集団に分散されて、生き残る幼虫数が激減します。この昆虫にとって、小さな時



ハスモンヨトウの成虫と幼虫のサトイモ被害

の集団の崩壊は、命の保証に重大な影響を与えるわけですが◆ハスモンヨトウで注目されることは、日本国内では、自然状態での越冬記録が未確認なことです。一方温室内や、人為的な千葉県南端での大量野外放飼試験では越冬が確認されています。近年の増加について、施設園芸増加説があります。私は千葉県南端などでの温暖地域越冬説を提唱しています◆ダイズやアズキでは、この虫が大発生をして葉が無くなる被害が出ます。集団生活時期は表皮を残すため、発見が容易です。畑を観察して、集団状態で採取することが対策の要点です。(江村 薫)